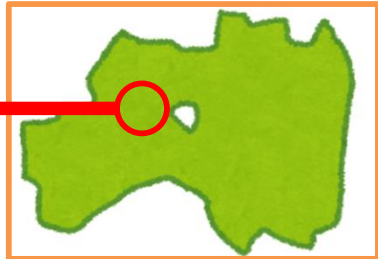


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H30～R2年度:計画作成主体:会津若松市農業再生協議会)(福島県)

取組の概要

対象品目 : 野菜(アスパラガス)
 主な取組主体 : 農業者6名
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準(H29年度) 659,466円/10a
 目標(R4年度) 732,914円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業
 (パイプハウスおよび付帯設備)

福島県
会津若松市



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

少子高齢化を背景に生産者は減少しているところであるが、会津若松市では農産物のブランド化を図る取組として「あいづ食の陣」を実施しており、4月～6月はアスパラガステーマ食材としている。また、令和2年に市内に広域選果施設が整備されたことで、より効率的な集出荷が可能となった。

このような背景の中、更なる販売額の増加を目指して需要の大きい4～5月の出荷量を増加させるため、露地栽培に比べ出荷時期を早めることができるパイプハウス半促成栽培面積を増加させることにより、販売額の増加を目指した。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①パイプハウスを整備することによる早期出荷
- ②市場動向を的確に把握し、作型等に取り入れた有利販売
- ③二期どり栽培の実施を促し、病虫害発生抑制と年間収量の向上
- ④栽培講習会を通じた適期作業、病虫害防除の徹底



推進体制

取組主体の栽培農家

- パイプハウス整備による半促成栽培
- 市場動向を踏まえた作型
- 二期どり栽培
- 適期作業、病虫害防除

指導・助言

JA、市、
農林事務所

情報共有

実需者

広域
選果施設
・市場動向を把握し有利販売

地域における独自の取組

<主な取組み>

栽培マニュアルを用いた栽培指導会の実施

取組成果

【事業実施による直接効果】

パイプハウスを整備し、半促成栽培等の市場動向を踏まえた生産体制を整えたことによる、販売単価の向上
 (販売単価 1,242円/kg → 1,275円/kg)

【事業実施による間接効果】

パイプハウスを整備し、施設栽培化に取り組んでいる生産者を会津産食材のPR事業「あいづ食の陣」等の取組で紹介することにより、アスパラガスを選択する新規就農者が誕生している。
 (R1～R4 アスパラガス作付新規就農者 5名)



※「あいづ食の陣」とは
 会津人が胸をはって「おいしい!」といえる食材を旬の時期に産地で味わってもらうための取組。
 春はアスパラガスをテーマ食材としている。

販売額が32%増加
(達成率288%)

